

貝リンガル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-20号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

【概況（9月19日 0時～9月20日 0時）】

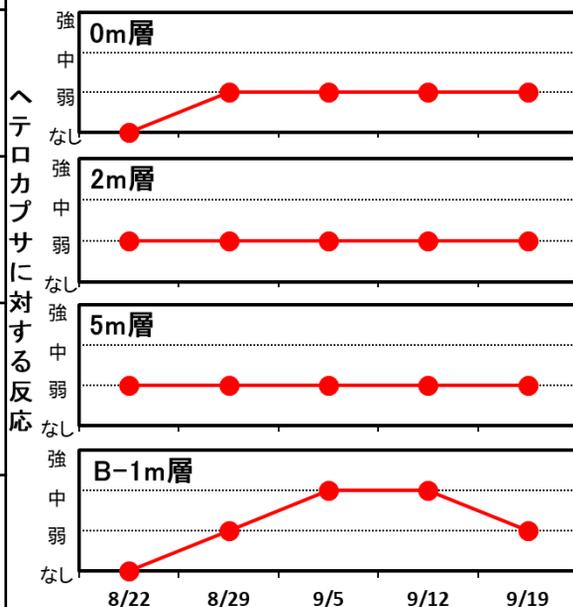
- 測定している4層でヘテロカプサに対する反応『弱』が確認されました。
- ヘテロカプサは、9月19日の立神浦赤崎における採水サンプル1mLあたり、2mで3細胞が確認されました。（0m、5m、B-1 mでは確認されませんでした。）

【おしらせ】次号は、9月27日（水）の予定です。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0 m	弱	9/14(6-9, 11-12時), 15(5-6, 8-9時), 16(0-6時), 17(4-7, 23-24時), 18(7-8時), 19(2-5, 6-9時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2 m	弱	9/13(8-11, 15-16時), 14(5-8, 13-14時), 15(10-11時), 16(3-6時), 17(9-11, 22-24時), 18(7-8時), 19(7-9時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5 m	弱	9/13(3-6時), 14(1-3, 5-8時), 15(4-6時), 16(2-3, 5-7, 10-11, 23-24時), 17(3-4, 12-13, 20-21時), 18(2-3, 11-12, 22-24時), 19(1-3時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1 m	弱	9/13(3-6, 16-19, 22-24時), 14(0-1, 2-3, 4-8, 17-21時), 15(2-4, 5-6時), 16(6-7, 15-16時), 17(3-4, 7-8, 11-12, 17-18時), 18(11-12, 13-14, 22-23時), 19(1-2時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。

【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。

⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

中：連続的なスパイク波形がみられる。

⇒ 強いストレスがあり、長く続くことと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。

⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

●本紙について

- 英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- 毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リンガルについて

- 二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- 英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスキーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- 湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- 海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- 本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

